

# 多様な機関と連携し、一人ひとりが主人公となる教育の実現を目指す

佐賀県 武雄市教育委員会 教育長 <sup>うらごう きわむ</sup>浦郷 究

全国の自治体は、どのような考えの下で、教育行政を進めているのかに迫る新連載。第1回は、地域や企業と連携した施策を様々な打ち出し注目されている佐賀県武雄市の浦郷究教育長が、学校外の機関と「組む」重要性を語ります。

うらごう・きわむ 佐賀県の公立小学校教諭、佐賀県教育委員会藤津教育事務所長、佐賀大学文化教育学部附属小学校副校長を経て、2007年度から現職。

## すべての子どもの成長に結びつけてこそその公教育

教育行政の根底にあるのは、「一人ひとりの子どもをしっかりと育てる」ことであり、どのような状況にある子どもにとっても、その成長に結びつく施策でなければ意味がない——本市ではそう考え、「未来を担うすべての子どもを主人公に」を基本理念に掲げています。

2014年度には全小学校に、2015年度には全中学校に、1人1台のタブレット端末を整備しました。発言が苦手でも、タブレット端末であれば自分の考えを書き込みやすくなります。どんな子どもも協働学習に積極的に参加するようになりました。また、タブレット端末で予習動画を視聴させた上で授業を行う「武雄式反転学習」によって、多くの子どもに家庭学習習慣が定着しています。

特別支援学級の子どもは、自分専用のタブレット端末を手にしたことにより、自分のペースで学びを進められるようになり、その達成感から何事にも意欲的に取り組むようになりました。また、次期学習指導要領

ではプログラミング教育が必修となりますが、本市では2014年度から企業と連携してプログラミングの授業を行っています。その成果もあり、2017年度はプログラミングの全国大会に小学生2組、中学生1組が出場。中学生が金賞を受賞し、副賞のアメリカ・シリコンバレー視察旅行で大いに刺激を受け、次の活動に意欲を燃やしていました。

さらに、文部科学省から食育の研究指定を受けた小学校では、子どもが毎日、3食の内容をタブレット端末に入力し、それを企業が歩数計などによる子どもの運動量と合わせてデータ化し、各家庭に伝える取り組みを行いました。すると、「朝食の献立のバランスをよく考えるようになりました」といった保護者の声が多く上がり、家庭の食への意識が高まりました。

このように、ICTの活用が、公教育の使命であるすべての子どもを伸ばすための有効な手段であることを実感しています。

## 連携の仕方を工夫し、取り組みをより深める

本市では、教育大綱に「組む」を

掲げ、学校・家庭・地域・企業・大学が一体となって教育活動を進めています。

例えば、本市の小学校では、週4日、朝の15分間を活用し、四字熟語や計算問題の反復学習などに取り組む「花まるタイム」を行っています。2014年度に始めてから2018年度までに、実施校は10校に広がります。この取り組みで重要な役割を担うのが、地域の方々です。学習支援員として各教室に入り、子どもに声をかけ、答案の丸つけをしていただいています。その数は年間延べ約1万人（2017年度）です。この交流をきっかけに、町で会った時にもあいさつをしたり、地域行事に参加したりと、両者の結びつきは深まっています。「地域の人に見守られている」「地域の子どもは地域で育てる」といったそれぞれの意識が強まることで、かつて年間40件以上あった犯罪少年数は2017年度には2件にまで減少し、触法少年数は2015年度からゼロが続いています。

学校外の機関との連携は難しい面もあり、新しい施策への戸惑いや不安もあります。しかし、よりよい教育環境を築こうと多様な人たちと議論す

\*プロフィールは2018年3月時点のものです。



る中で、予想以上のアイデアが生まれます。そのアイデアを、子どもが「挑戦してみよう」と意欲をかき立てられる施策に具体化することが重要です。

「花まるタイム」の実施に際しては、各校と各校区の地域協議会が議論を重ね、協力の申し出のあった地域の小学校から導入していきました。学校から一方的に地域にお願いするだけでは、両者が一体となって子どもを育てる意識は醸成しにくいと考えたからです。また、本市では2015年度から教育委員を10人に増やし、うち5人を地域からの公募としました。子育て世代の委員も加え、多様な視点で教育行政について議論しています。

新しい施策ほど、客観的な評価による成果が求められます。そのためにも、大学や企業との連携が有効だと考えています。タブレット端末の活用については、東洋大学の協力を得て検証し、成果の発信と課題の抽

出を行っています。さらに2017年度には、文部科学省の外国語教育を中心としたカリキュラム研究の地域指定を受けましたが、研究指定校の3つの小学校では、ベネッセの〈GTEC Junior〉\*を導入しました。2017・2018年度と連続で5・6年生が受検して子どもの英語力の伸びを測り、その結果を教員の授業改善にも生かす予定です。

### 魅力的な教育で 地域活性化を図りたい

今後、強化を考えているのは、乳幼児から高校までの縦の連携です。2015年度にこども部と教育部を統合した「こども教育部」を教育委員会に設け、一貫して子育てを支援する体制を整えました。特に貧困対策については、「こどもの貧困対策課」を独立させ、ひとり親家庭の支援や子どもの発達段階に応じた切れ目の

ない施策を進めているところです。

また、2017年度から児童・生徒用のデジタル教科書を導入しています。タブレット端末が1人1台ある環境を生かした取り組みにはまだ工夫の余地があり、指導力のさらなる向上を目指します。市立小・中学校のすべての先生方に成長を実感してもらうために、「今後残しておきたい授業」の記録を毎年提出してもらい、冊子にまとめて全員に配布していますが、その中にはタブレット端末を活用した授業が増えています。先生方の豊かな発想を感じるのと同時に、そうした力を生かすのも教育委員会の役割だと考えます。

本市の教育に魅力を感じて、移住する方々が増え、地域の活性化につながっています。教育にはそうした強い力があると信じ、既成概念にとらわれずに、様々な機関と連携し、挑戦し続けていきたいと思っています。

## 武雄市 プロフィール



◎ 2006年に1市2町が合併して誕生した。佐賀県西部に位置し、JR博多駅から車で約1時間、九州佐賀国際空港及び長崎空港から車で約40分と、西九州における交通の要衝。開湯から約1300年という歴史ある武雄温泉を有する。

人口 約4万9,000人 面積 195.44km<sup>2</sup> 公立学校数 小学校：11校（ほか分校3校）、中学校：市立5校・県立1校  
児童・生徒数 約4,000人 電話 0954-23-5170 URL <http://www.city.takeo.lg.jp/kyouiku/>

\* 小学校の外国語活動で身につけてきた英語力の4技能をタブレットを用いて測定するテスト。